

経済・金融 フラッシュ

貿易統計 14年3月

～輸出の低迷と駆け込み需要に伴う輸入の急増から貿易赤字がさらに拡大

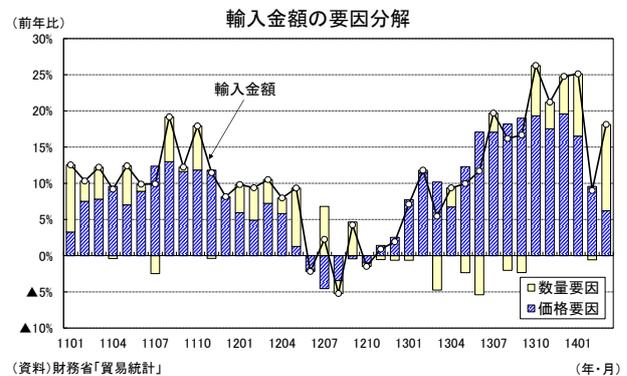
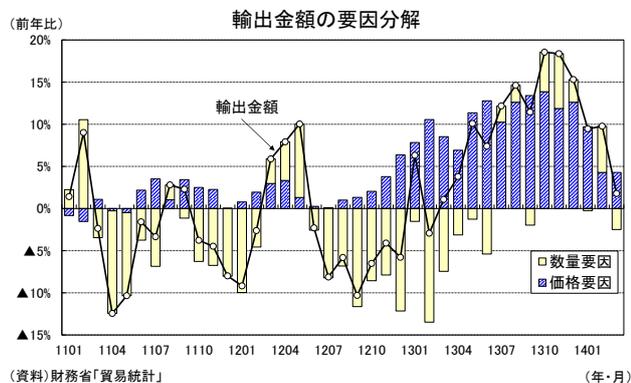
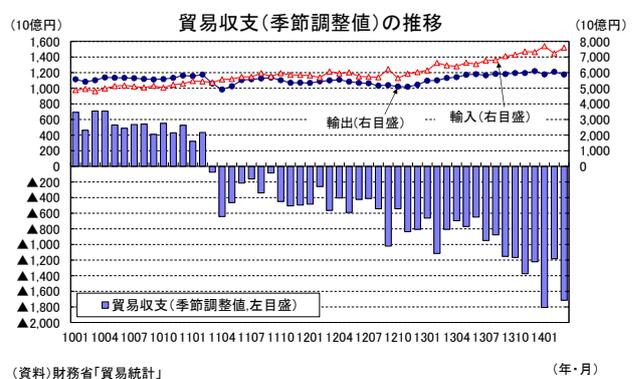
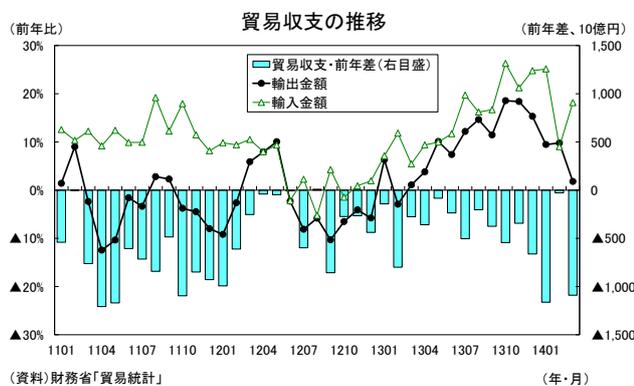
経済研究部 経済調査室長 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. 貿易赤字がさらに拡大

財務省が4月21日に公表した貿易統計によると、14年3月の貿易収支は▲14,463億円の赤字となり、赤字幅は市場予想（QUICK集計：▲10,809億円、当社予想は▲9,697億円）を大きく上回った。輸出の伸びが2月の前年比9.8%から同1.8%へと低下する一方、輸入が2月の前年比9.0%から同18.1%へと伸びを高めたため、前年に比した貿易収支の悪化幅は前月よりも拡大した。

輸出の内訳を数量、価格に分けてみると、輸出数量が前年比▲2.5%（2月：同5.4%）、輸出価格が前年比4.4%（2月：同4.2%）、輸入の内訳は、輸入数量が前年比11.6%（2月：同▲0.5%）、輸入価格が前年比5.8%（2月：同9.6%）であった。輸入は消費税率引き上げ前の駆け込み需要に加え、4月からの環境税（地球温暖化対策のための石油石炭税の税率の特例）増税を前にした原油の輸入量急増（前年比14.7%）が押し上げ要因となった。



季節調整済の貿易収支は▲17,142億円の赤字となり、2月の▲11,840億円から赤字幅が大きく拡大した。輸出が前月比▲2.7%（2月：同2.7%）と2ヵ月ぶりの減少、輸入が前月比5.0%（2月：同▲6.0%）と2ヵ月ぶりの増加となった。四半期ベースの貿易赤字は13年4-6月期の▲8.5兆円（季節調整済・年率換算値）から7-9月期が▲11.9兆円、10-12月期が▲15.1兆円、14年1-3月期が▲18.8兆円と拡大傾向が続いている。

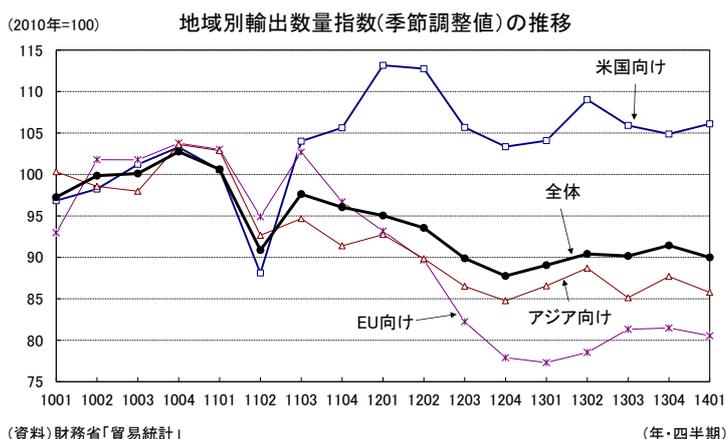
14年度入り後は、消費税率引き上げ後の内需の減速に伴い輸入の伸びが低下することを主因として貿易赤字は縮小する可能性が高い。ただし、海外生産シフトの進展といった構造的な要因もあり輸出の回復ペースは引き続き緩やかなものにとどまる可能性が高いことなどから、赤字が解消することは見込めない。現時点では14年度の貿易収支は▲10兆円程度の赤字になると予想している（13年度は▲13.7兆円）。

2. 輸出は一進一退が続く

3月の輸出数量指数を地域別に見ると、米国向けが前年比1.5%（2月：同▲1.0%）、EU向けが前年比▲0.4%（2月：同8.2%）、アジア向けが前年比▲4.9%（2月：同5.0%）となった。

1-3月期の輸出数量指数を季節調整値（当研究所による試算値）で見ると、米国向けが前期比1.2%（10-12月期：同▲1.0%）、EU向けが前期比▲1.1%（10-12月期：同0.2%）、アジア向けが前期比▲2.2%（10-12月期：同3.0%）、全体では前期比▲1.6%（10-12月期：同1.4%）であった。

景気が比較的底堅い米国向けは持ち直しているものの、EU向け、アジア向けが低迷している。大幅な円安が進行し始めてから1年以上が経過しているにもかかわらず輸出は一進一退の状況を脱していない。



一方、1-3月期の輸入数量指数（季節調整値）は前期比2.6%（10-12月期：同2.6%）と3四半期連続の増加となった。消費税率引き上げ前の駆け込み需要もあって国内需要が堅調に推移したことが高い伸びにつながった。GDP統計の外需は2四半期連続でマイナスとなっているが、14年1-3月期も成長率の押し下げ要因となる可能性が高い。

3. 3月の経常収支(季節調整値)は赤字幅拡大の公算

経常収支（季節調整値）は14年1月が▲5,833億円、2月が▲414億円の赤字となったが、3月は貿易赤字（季節調整値）が拡大したため、経常収支の赤字幅は2月から大きく拡大する可能性が高い（原数値の経常収支は1,000億円程度の黒字を予想）。この結果、13年度の経常収支は0.8兆円程度とかなり黒字を確保することが見込まれる（12年度は4.2兆円の黒字）。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。